

議論のための論点メモ（検討事項 2 関係）

【検討の視点（案）】

- 高等学校通信制課程は、戦後、勤労青年等に高等学校教育の機会を提供するものとして制度化されているが、近年では、通信制課程に在籍する生徒層の若年化・多様化が進んでいる実態にある。制度当初に想定されていた勤労青年を主とする生徒像からシフトし、時代の変化・役割の変化に伴って、今の生徒像に合った、令和時代の高等学校通信教育の在り方を検討していくことが必要ではないか。
- とりわけ、令和時代の学校教育では ICT が基盤的ツールとなることを前提としながら、生徒の実情にも応じつつ、ICT の進歩とともに、その効果的な活用方法をアップデートしながら進めていくことが重要との視点に立って、実証的に検討を進めていくことが必要ではないか。

【議論のための論点メモ】

- 通信制高等学校において、高等学校教育として共通に身に付けるべき資質・能力をどのように考えるか^(※1)。

①添削指導、面接指導、試験、メディア学習等の在り方

- これからの時代の添削指導、面接指導及び試験について、求められる資質・能力を踏まえつつ、それぞれの在り方はどのように考えられるか。また、それぞれの ICT の効果的な活用方法はどのように考えられるか。
- きめ細かな指導の充実や生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価することができるよう、通信教育ならではの教育方法（添削指導、面接指導及び試験）に応じて、目標に準拠した学習評価による観点別学習状況の評価^(※2)はどのように行っていくことが考えられるか。
- これからの時代のメディア学習（多様なメディアを利用して行う学習）について、教科書や学習書等による自学自習の効果を高めたり、生徒の学習意欲を喚起したりするものとして、その在り方はどのように考えられるか。また、その報告課題等を通じた指導方法や評価方法は、そのメディア学習の実施目的や実施方法に応じてどのように考えられるか。
- 教育課程の編成・実施に関する場面のみならず、生徒の学びをサポートする学習管理システムや、教職員の校務をサポートする統合型教務支援システムなど、通信制高等学校における ICT の活用方法はどのように考えられるか。

②学校としての「福祉的な役割」の実現に向けた在り方

- 学校は、学習機会と学力を保障する役割のみならず、全人的な発達・成長を保障する役割や、人と安全・安心につながるができる場所・セーフティネットとして身体的、精神的な健康を保障するという「福祉的な役割」を担っていることが中央教育審議会等でも議論されているところ、通信制高等学校における「福祉的な役割」はどのように考えられるか。
- 通信制高等学校において、義務教育段階の学習内容の学び直し、ソーシャルスキルトレーニング、キャリアデザイン、日本語指導など、多様な学習ニーズに応じながら、卒業後の進路を見据えたカリキュラム開発を促進するためにどうすべきか。
- 通信制高等学校において、教師による対面指導や生徒同士による学び合い、地域社会での多様な学習体験や、自らの在り方・生き方を考えて努力した結果を評価していく観点から、技能連携制度のみならず、定通併修制度や学校外学修制度等の活用を通じた学びをどのように考えるか。

(※1) これまでの中央教育審議会における高等学校教育の「コア」に関する検討状況については、参考資料 3「中央教育審議会高等学校教育部会審議まとめ（概要）」も参照。

(※2) 学習評価の在り方については、参考資料 4「学校評価の在り方ハンドブック」も参照。